

学校評価計画

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和6年度 学校評価重点計画

小松市立串小学校
学校長 柴田 和美

目指す児童像

なりたい未来を創り出すためにチャレンジする児童

- なりたい姿に向かってチャレンジする子
- 目標に向かって、自己調整して学べる子
- 他者と話し合い、問題を解決したり、新しい考えを生み出したりする子
- 自分や友達のよさや成長を見つけたり、応援したりする子

(1) 学校の課題

- ① 他者と交流することを通して、自己の考えを広げ深めていく力の育成が求められる。主体性、自己調整力という点において課題がある。
- ② 自分たちで話し合い決定し実行する、自分たちの問題を自分たちで解決する等の経験が少なく自治的な集団の育成が求められる。
- ③ 生活習慣や人間関係形成能力の低さが欠席等につながるなど、自律性、寛容性、レジリエンスという点で個人差がある。

(2) 具体的な方策と検証

◎昨年度の課題と成果をもとに、学校の課題解決のための共通システムを構築し、共通実践を図る。PDCA サイクルを回しながら、検証し、更なる改善を図る。

- ・昨年度の課題を受け、効果的で効率的な教育課程（日課表の変更等）を工夫し実践する。
- ・「みんなが楽しい学校、みんなが成長できる学校」というスローガンを児童と共有し、学級会（学級活動1）や学校会議をシステム化し、自治的な集団を育成する。
- ・「授業チャレンジ」の取組を通して、全校（児童、教師）で共通した具体的な目標を掲げ、基本的な力をスモールステップで高めていく。学校研究においては、国語科、道徳科、総合に焦点を置き、相互の関係を考え効果的に指導する。特に、国語科においては、自立した学習者の素地づくりに向けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な指導をもとに授業改善を進める。
- ・学力の実態を分析し、それを整理したカリキュラムマップをもとに、児童の実態を考えた授業改善、帯タイムや家庭学習の工夫により、確実な資質能力の定着をめざす。
- ・全ての児童にとってウエルビーイングであるための指導方法（特性のある児童や不登校傾向児童への対応等）を考え実践することで、教育目標の具現化を図る。
- ・若プロ等の校内研修を工夫して、学級経営、児童理解、生徒指導力を高める。今年度は体育科の授業改善にも取り組み、スポーツマンシップを養う一助とする。ICT活用についても、GIGA スクールの計画に沿い、定期的な学びの場、実践交流の場を確実に設定し活用頻度やレベルを高める。